

特集1

身近な生きものを見つけよう

ゆけ！ むさしの自然探検隊

私たちの身の周りには、
さまざまな生きものが生
息・生育しています。今
年の夏休みは、市内で見
られる身近な生きものや
植物を探しに出掛けま
せんか。

また、生きものや自然
を守り、未来につなぐた
めのキーワード「生物多
様性」についても一緒に
学びましょう。

さまざまな 生きものや植物を守り 豊かな自然を未来につなぐ

人や動植物など、すべての生きものには個性があり、互いに影響を与え合いながら生きています。このつながりは「生物多様性」といわれ、私たちの暮らしの基盤にもなっています。

関東大震災後、武蔵野市は市街地化が加速し、昭和4（1929）年には約8割あった緑被率が、平成28（2016）年時点で24・3％まで減少しています。一方で、自然環境の再生に向け、玉川上水の復活など、市民とさまざまな取り組みを行ってきました。人間と自然が調和する武蔵野市らしい「生物多様性を守り、育てるまち」を目指し、市では生物多様性基本方針を策定し、「まもる・そだてる」「わかる・つたえる」「うごく・つながる」の3つの方針に基づき、施策を推進しています。

市の生物多様性のポイント

強み・機会として捉えられること

●人と自然が共生している

市の自然環境は、公園や上水、街路樹、住宅地の庭木など、人との関わりの中で育まれている。

●生態系ネットワークを構築するための原型がある

玉川上水、千川上水、緑道などが整備され、これらが生きものすみかと移動経路の役割を担っている。

●自然環境の保全について市民の活力がある

市の緑は約6割が民有地にあり、市民団体らによる自然環境の保全も積極的に行われている。

●生物多様性の文化・精神的サービスが充実している

自然の中でレジャーやスポーツが楽しめ、自然に関連した教育・芸術施設も充実している。

弱み・課題として捉えられること

●自然環境が量的に減少、質的に低下している

市街地化や生活スタイルの変化、気候変動などから自然環境は量・質ともに低下している。

●自然環境の種類や存在する地域に偏りがある

樹林環境と比較して池沼や草地環境は少なく、エリアによって公園や農地の偏りがある。

●外来種が地域本来の生物多様性を脅かしている

捨てられたペットなどの外来種が増加し、地域の生態系を脅かすものも確認されている。

●ほかの市・区や都、市外各教育機関との連携が不可欠

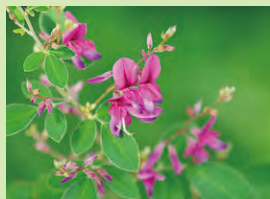
市の自然環境は、ほかの市・区にまたがる場所や都立施設も含まれ、生態系ネットワークの維持・向上には各所との連携が必要。

*市生物多様性基本方針より



市の木・花を知ろう！

市のシンボルとなっている木と花は、昭和52（1977）年に
武蔵野市緑化市民委員会を中心として市民参加のもとで選定されました。



ハギ

（マメ科）

秋の七草の1つ。日本では10種以上の野生種が確認されている。



ムラサキ

（ムラサキ科）

夏に小さな白い花をつけ、紫色の根は生薬や染料に使われる。



ムラサキハナナ

（アブラナ科）

春に咲く青紫色の花で、公園など身近な場所で見える。



ツツジ

（ツツジ科）

4月から5月にかけて開花。街路樹に多く取り入れられている。



ジンチョウゲ

（ジンチョウゲ科）

春が近づくにつれ花が咲き出し、甘くて上品な香りを放つ。



スイセン

（ヒガンバナ科）

秋に植えると年内には花が咲きはじめ、翌年の春まで楽しめる。



フヨウ

（アオイ科）

花びらに入った縦じわが特徴。夏から秋にかけて次々と開花する。



アサガオ

（ヒルガオ科）

茎は棒などに絡みつきながら生長し、夏の早朝に花を咲かせる。



キク

（キク科）

日本の国花で、古くから秋を代表する花としても親しまれている。



コブシ

（モクレン科）

サクラとともに春の訪れを告げる花木で、3月に白い花をつける。



ケヤキ

（ニレ科）

高木になるため、市内では江戸時代に風よけとして植えられた。



ハナミズキ

（ミズキ科）

春は白や紅色の花、秋には紅葉と一年を通して楽しめる花木。

市内の公園や緑地には、ケヤキやコブシ、ツツジなど、市民の木や花をはじめとして緑がたくさん！
特にこれからの季節は、涼しい木陰が散歩にぴったり。
ぜひ遊びに来てください。



緑のまち推進課
吉川いづみさん

さまざまな生きものを見つけに出掛けよう!

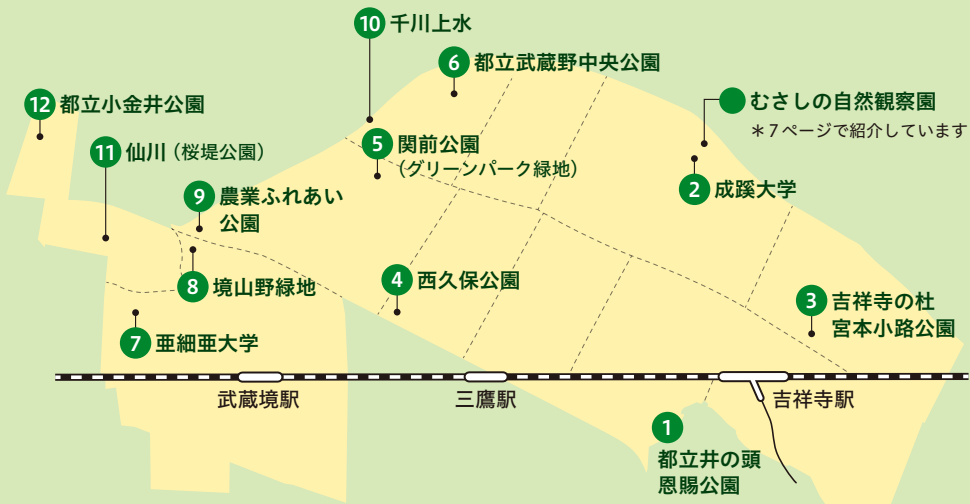
私たちが暮らすまちには、さまざまな生きものが生息・生育しています。

では、どんな場所に、どんな生きものがいるのでしょうか？

生きものによって生息の場所は異なり、また同じ場所でも季節によって出会える生きものは変わります。

目を凝らし、耳を傾けてみれば、見慣れた風景の中に気付かなかった発見があるかもしれません。

むさしの
自然探検
MAP



*令和元年度市生きもの調査報告書を基に作成

【外来種】

外来種

もともとこの地域にいなかったのに、人間によって持ち込まれた生きもの。

【希少種】

保全のために生息場所を伏せています。見つけてもその場に残しておきましょう。



ハクビシン

[MAP] 1 · 2 · 3 · 9

鼻筋に白い線がある。木登りがうまく、鳥の卵や果実などを食べる。



ホンダタヌキ

[MAP] 1 · 2 · 7 · 9

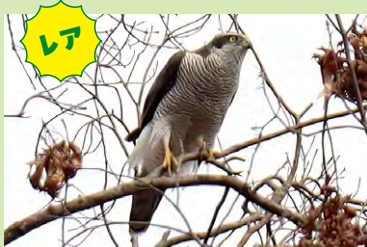
体長約 50cm の夜行性動物。低地帯から山岳地帯まで広く分布する。



アズマモグラ

[MAP] 6以外の11カ所

農地などに生息。地中にトンネルを掘って中に落ちた虫を餌にする。



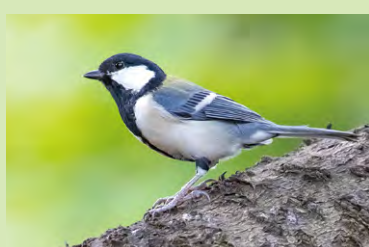
才才タカ

日本のタラの仲間。代表的な種。平地から山地まで生息している。



カワセミ

青みがかった鮮やかな緑色の羽をもつ。水辺に暮らし、小魚を食べる。



シジュウカラ

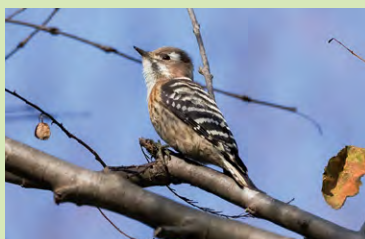
[MAP] 全力所

公園や市街地でも多く見かける鳥で、
白い頬とおなかの黒い帯が特徴。



ニホンアマガエル

環境に合わせた変色が得意。弱い毒を持つため触れたら手洗いを。



コゲラ

[MAP] 1・2・4・6・7・8・11・12

日本最小のキツツキで、森だけでなく公園でも見ることができる。

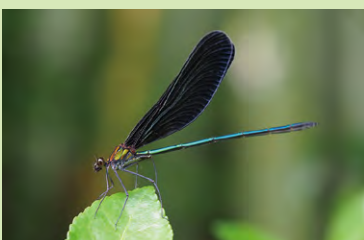


外来種

ワカケホンセイインコ

[MAP] 1・3・4・5・9・11・12

ペットとして大量に輸入したものが野生化。集団でねぐらをとる。



ハグロトンボ

[MAP] 4・10

緩やかな流れの川岸に生息するが、23区内では絶滅危惧種。



アオダイショウ

さまざまな環境に適応するが、餌となる小動物が豊富な里山に多く生息。



ニホンカナヘビ

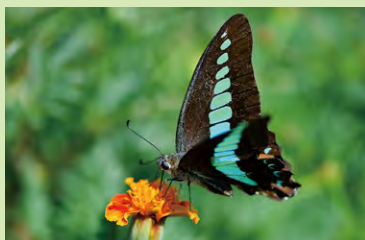
低地から山地まで広範囲に生息する。日当たりの良い場所を好む。



ナナホシテントウ

[MAP] 2・6・7・8・9・11・12

危険を感じると死んだふりをする。アブラムシをよく食べる。



アオスジアゲハ

[MAP] 1・2・4・5・6

黒地に鮮やかな空色が印象的。飛翔力が高く、目まぐるしく飛び回る。



ショウリョウバッタ

[MAP] 2・6・7・9・11・12

日本最大のバッタ。音を立てて飛び、キチキチバッタとも呼ばれる。



ミナミメダカ

全長約4cm。かつては小川などで見られたが現在は環境省の絶滅危惧種。

市はおおむね5年おきに市内の生きものの生息状況調査を行っています。
みんなが知っているもの、珍しいもの、やっかいな外来種…想像よりずっとたくさんの生きものに会えます。
絶滅の恐れがある希少種も一部残っていることは、武蔵野市の特徴の一つ。
この多様な生態系を次世代へつなぐために何ができるか、7ページにヒントがありますよ！

環境政策課
福永真大さん



さまざまな植物を見つけに出掛けよう！

草地や水辺だけでなく、住宅地や道路沿いなど、
いつも見慣れている風景の中にも、さまざまな植物を見つけることができます。



キンラン

黄金色の春の野草。樹木の菌類の栄養で育つ。環境省の絶滅危惧種。



マヤラン

光合成をせず、地下茎の中にある菌類から栄養分をもらっている。



ニリンソウ

白い二輪の花。春先に咲き夏前に枯れるため「春の妖精」と呼ばれる。



キュウリグサ

[MAP] 2・6・7・10

道端などで見かける春の花。葉をもむとキュウリに似た香りを放つ。



タチツボスミレ

[MAP] 1・2・4・6・8・10・11・12

最も身近なスミレのひとつ。花の後ろの突き出た形が特徴。



カタバミ

[MAP] 3・8以外の10カ所

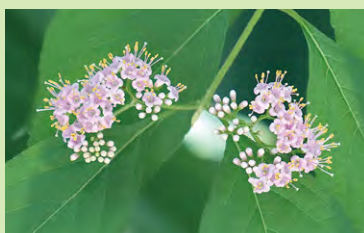
実が熟すと多数の種をはじき飛ばし、風に頼らず生育範囲を広げる。



ゲンノショウコ

[MAP] 4・10・11・12

下痢止めで薬効が早く、現の証拠の名がついたといわれる。夏秋の花。



ムラサキシキブ

[MAP] 1・2・3・8・10

古くから山地の湿地や森林に自生。秋に紫色の実をつける。



ナガミヒナゲシ

生育場所：道路沿いなど

パピーに似た花。繁殖力が強い。触るとかぶれる恐れがあるので注意。

外来種

環境政策課
なかがれしずか
中川 静花さん



周囲が都市化されていく中でも、雑木林や限られた水辺に希少な植物が育っています。
道端でよく見る花も今まで何気なく見過ごしてきた草木も、
一つ一つが興味深い名前の由来や個性的な姿を持っているので
ぜひ目を向けてみてください。



生物多様性を守るための 取り組みに参加してみよう



私たちが自然の恵みを受け続けるためには、行政の施策だけでなく
市民の方々の関心と自主的かつ積極的な活動が大きな力になります。
身の周りの環境や生態系に意識を向けながら、皆さんで生物多様性を守りましょう。

生物多様性の保全のための3つの方針

まもる・そだてる

例えば…

家や職場など、身近なところ
を緑化して憩いの場と生きもの
のすみかを増やす。

例えば…

ペットを捨てると野生化し、
地域の生態系を壊してしまう
恐れがある。ペットは最後まで
で責任をもって飼う。

わかる・つたえる

例えば…

公園や上水沿いなどを散歩するだけ
でも生きものの存在を実感できる。
まずは自然に親しみ、関心を持つ。

例えば…

「むさしの自然観察園」の自然体験
教室や「関前公園」の
かいぼりなどに参加。

むさしの自然観察園



うごく・つながる

例えば…

生きもののすみかを汚さないため
に、ごみのポイ捨てや油を排水溝
に流すことをやめる。

例えば…

ごみの分別やリサイクルを心掛け、
資源とエネルギーの無駄遣いを見
直して温暖化対策。

生きものの調査に参加してみよう！

市では、ゲーム感覚で生きものを探しができる「い
きものコレクションアプリ Biome（バイオーム）」
を活用した市民参加型の“生きもの調査”
をスタート予定。詳細は市報・市ホーム
ページでお知らせします。



●参加方法

- 1) スマートフォンに「Biome」アプリをインストール
- 2) 市内で見つけた生きものを撮影
- 3) 生きものの名前をAIで調べて名前を特定
- 4) 投稿して生きものをゲット

＊アプリのダウンロード方法など詳細は市報7月
15日号に掲載予定



生きもの探しを安全に行うために、3つの約束を守ろう！

危険な生きもの、弱っている、
死んでいる生きものには触らない

餌をあげたり、
傷をつけたりしない

生きものを採取したり、
持ち帰ったりしない

生きものや自然に興味を持つことが、生物多様性を守る第一歩です。

例えば、近所の公園を散歩するだけでもたくさんの生きものを発見できます。
調査のアプリをお供に、ぜひ家族や仲間と生きもの探しに出掛け、
まずは身近な自然を見つけてみませんか。また、生物多様性を守るために
できることを、この特集をきっかけに考えてもらえるとうれしいです。



環境政策課
吉村 彩子さん